

平成29年度高梁市立学校再編推進審議会（第1回）会議録（概要版）

1. 招 集 平成29年5月11日 午前10時00分
2. 開 会 平成29年5月11日 午前10時00分
3. 閉 会 平成29年5月11日 午後 0時00分
4. 会議の場所 高梁市役所 4階会議室1、2
5. 委員の氏名及び出欠

氏 名	出欠の別
山部 正	出 席
川本 雅子	出 席
肥田 吉教	出 席
湯浅 眞治	出 席
植木 哲夫	出 席
村上 鉄治	出 席
三宅 忠篤	出 席
川上 博司	出 席
黒川 康司	出 席
大川 和恵	欠 席
仲元 稔明	出 席
塩田 寿光	出 席
中山 正浩	欠 席
松尾 志郎	出 席
妹尾 芳訓	欠 席

6. 事務局の出席者の職氏名

職 名	氏 名
教 育 長	小 田 幸 伸
教 育 次 長	宮 本 健 二
教 育 総 務 課 長	大 福 克 志
学 校 教 育 課 長	張 谷 孝 文

教 育 総 務 課 課 長 補 佐	西 川 優 子
-------------------	---------

7. 議事の内容

別紙会議議事要録のとおり

高梁市立学校再編推進審議会（第1回）議事要録概要

1. 開会

会議は会長が招集することとなっているが、第1回目であるので、市長が招集した。

2. あいさつ（市長）

- ・ 審議会の委員として委嘱させていただいた。任期満了までお力添えをいただくことを願う。
- ・ 高梁市も少子化の波がすすみ、平成27年の1年間の出生数が160人
平成24年末をもって高梁市において産院がなくなり出生数は減少していたが、平成28年は192人まで32人増加した。平成29年も前年度を上回る勢いで出生している状況である。
増加の様々な要因については、これまでの少子化対策、子育て対策に対して理解を得てきているのではないかと。高梁で出産できなくても、高梁市で子供の教育をとということにつながっているのではないかと。また、平成27年国勢調査において35歳から44歳の人口の増減ゼロである。
- ・ 教育に関しては市内小中学校の現状を理解いただき、子供達がしっかりと勉強ができ、心身ともにたくましく大志を抱き未来を拓くという人材育成のためにどのようにあるべきかこの審議会では審議いただきたい。
- ・ 審議会の設置要綱の中に学校再編計画策定も入れているが、性急にすすめるつもりはない。高梁市内で本当にどうあるべきか、学校が廃校となるということはどういうことか、私自身母校中学校廃校を経験しているので寂しさもあるが、子供が本当にどうあるべきかを考えるべきであり、それをこの審議会を通じて市民に理解をいただけるよう話をさせていただく必要がある。地域振興は別の観点で考える必要がある。
- ・ 今年度高梁市もICT教育を進める。中学校は成羽中学校、小学校は富家小学校と松原小学校2校に先行導入する。小学校2校には、ICTを活用し互いの学校が互いの顔を見ながらの授業ができないかも研究してほしいとお願いしている。また、少人数学級は、小学校の低学年の時はよいのであろうが、複式若しくは変則複式ということになれば話は別である。少人数の中で目を行き届かせるというのは大事なことであるが、このような複式の状態で授業を行うのは好ましくない状態であると考え。
- ・ 大綱に掲げているように就学前教育が重要であると考えため、就学前教育係を新設した。子供を就学前から地域で、行政も一緒になって育てていく。スムーズに小学校へ、また中学校へ移行していく。中学校では、志を持たないようなことではだめであるので、志が持てるような子供に育てたい。
- ・ 早いスピードで職業が変化しており、その波は高梁にも押し寄せている。今までの仕事をロボット等に任せるとなると仕事も変わってくる。変化に対応できるように、一定の教育環境の整備が必要である。その整備が効果的に子供達に伝わる環境整備が現在の我々の責任であると認識している。
- ・ この審議会でも色々な議論をいただきたい。小中学校の基本的な在り方、教育目標を達成するための教育施策についても審議をいただきたい。

3. 委員及び事務局の紹介

（自己紹介）

4. 正・副会長の選出

会長に山部委員、副会長に川上委員が選出される。

5. 諮問について

市長から山部会長（以下「会長」という。）へ諮問

諮問事項：教育環境を確保するための小中学校再編の基本的な考え方について
教育目標を達成するための教育施策のあり方について

6. 議事

会長：

- ・ 教育というのは地域振興と非常に大きな関わりがある。子供が多くいればこの会議は必要ない。子供がいなくなりこれから10年、20年先を見据えた上で現状をふまえ高梁市の教育をどうしていくか、小規模校は小規模校でよいところが多くある。しかしそこで子供が十分な教育を受けて、将来の日本あるいは世界を背負って立つような子供になって行ける教育ができるかどうか論点となる。
- ・ 毎月会議を開く。原則会議はオープンであるが、実際にどの学校をどうするかというような議論となった場合、マスコミの取り上げ方によっては、個人攻撃される場合もあるので場合によっては会議をオープンにしない場合も起こってくると思う。それについて会長が定めさせていただく。忌憚のない意見をお願いします。この場には教育関係者が少ないので、学校・教育の内容については、場合によって学校の校長先生を呼んで実際の学校状況を聞きたい。

学校教育課長：市内小中学校の現状について別添資料により説明

会長：委員の思いについて意見を求める。

委員：学校の魅力が作れるように市全体で取り組んでほしい。小規模校でも魅力があれば生徒が増えてくる事例はたくさんある。その地域で子育てができるような環境を作ってもらわなければ、これが議論のスタートである。審議会として提言をまとめてもらうことをぜひお願いしたい。

会長：学校の魅力づくりは、教育と地域振興の面でもプラスが生じてくる。地域振興については別に議論する必要がある。教員配置と子供の教育がどのように関わりあっていくか。どこまで子供達に教育ができていくのか。こういったことについて委員のみなさんと勉強しなければならない。教育の限界はどこなのか。3学級でもよいのか2学級でもよいのかというようなところが議論となると思う。

小学校と中学校では少し異なる。中学校は、ある程度の規模がなければならない。集団の中で切磋琢磨させなければならない。中学校は今かなり人数がいるが、現状でよいかという議論も必要がある。小学校は地元あるいは親に近いところで育てたいという気持ちも理解できる。

委員：中学校の部活動において各中学校単位でチームが組めない。他の中学校と合同チームで市の大会に出場するという現状がある。切磋琢磨させるというのであれば、子供の数は多い方がよい。教育環境を整えることにはお金がかかる。環境を整えることによってその負債が将来に渡って全て子供の方に負担となってくる。人口が減少していて学校を建てますというのもよいとは思いますがメリットもデメリットもある。通学等はデメリットが出てくるのだが。実際していこうということには財政負担がかかる。次世代に負担を背負わすことになるので、そのことも考えなければいけない。子供の教育の事のみで議論を前に進めることはできない。

会長：

- ・ 学校問題を考える場合どうしても今ご指摘のあったことが出てくる。地域振興、市の財政など色々な面に目を向けなければならないが、今回は教育に限定して話し合いをすすめていきたいということである。
- ・ 受けている諮問は、教育環境を確保するための小中学校の再編の基本的な考え方である。
- ・ 小規模校がたくさん出てきている。小規模校の小規模の定義のあたりが今後問題として出てくる。その小規模校をどうするかその次には再編ということとなる、その再編をどのラインでどのようにしていくか。再編する場合にはどのようなことに配慮していかなければならないのか。再編の基準というようなものが問題になってくる。
- ・ 教育目標を達成していくための教育施策の在り方その中には委員の指摘のように施設を作るということとなれば財政的なこともあるので、よいものを作るのはよいことだがそういったバランスも考えなければならない。
- ・ 入学者が全くいないといった状況が生じる場合どのような対応をすればよいのか。
- ・ データとして10人程度しかいない、クラスが場合によっては2クラスになっている。現状3クラスがどのようになっているのか校長先生に来ていただいて、そのような状況下で教育に支障は起きていないのか聞いてみる必要がある。
- ・ 文科省は小学校6年生と中学校3年生に学力テストを実施している。中学校が県下でもトップクラスである。

学校教育課長：昨年度の結果は、中学校は県下でトップクラスである。

小学校は県や全国平均よりは若干下がるという状況にあるが、年を追うごとにその差は縮まってきている。何がよかったのかという分析をして見ると、小学校で悪かった子が中学校で突然よくなるということも考えにくいので、小学校で積み重ねてきている指導の成果といったものが中学校で徐々に表れているのではないかと。

会長：学力について高梁市はすばらしい。小・中学校の現状についての資料では現状を認識いただき、今後審議の中で使いたい。小規模校のメリットデメリットについても議論し、資料の最後の生徒減少による小・中学校の課題については、次回にまわしてもよいかと。

教育長：これをしていたら、この後皆さんのご意見をいただく時間がなくなってしまいますので。

教育長：次回は小規模校の校長に現状を話していただく中で一緒に説明した方が分かりやすいと思います。

会長：その際に課題を少し勉強していければと思う。

教育総務課長：今後の進め方について別添資料により説明

会長：理想的な教育の在り方ということで3回目、4回目が山場となると思う。

教育長：3回目、4回目は1回で終わるということではなく、再編についてと学校教育の充実が山場ということである。

会長：1回で内容的には終わらないということである。

最後は中間まとめをつくり、地域に出向いて学校の在り方はこう考えているということを一時的なパブリックコメントとして地域に理解をいただきたい。そして最終的に答申をしていくという運びにしたい。

教育長：意見の中に事務局に対する資料要望等も含めてほしい。要望もあわせていただければ、次回からの審議会の運営に活かしていきたい。

委員：地域に学校がなくなってしまうということで頑張っている。

委員：このような会に出るのははじめてで、今日現状を聞かせていただいた。勉強しながら今後取り組んでいきたいと思う。

委員：結婚しても地元にはいない。引き留める方法がない。地元で結婚しても残れる状態ができればよいと思う。

委員：魅力ある学校づくりとして有漢西小学校は、蔭山メソッドを取り入れていたが、子供がいまいき計算している。自分で考えて行動するというのは就学前教育から必要である。

委員：子供がいなくなったのに学校があるというのはいけないから再編ということになるだろう。再編の基準というのを示してもらえたらと思う。

委員：再編推進という言葉自体すでに受け入れ難い。特色ある学校づくりのためというようには受け取り難い。

会長：子供の教育をどうするかということを考えていく会であるにとらえている。

委員：時代は変わってきた。三世代応援の体制を考えるべきである。学校施設の整備特にプールだが、農村プールなどの施設はある程度子供のために地域に分散してあるべきである。

委員：再編のある程度の線引きのきちんとしたものがないと難しいのではないか。

備中中学校の閉校も本会議で議決されていないのに地元へ話が先にされていたというのも聞いている。

統合すると一時期は（児童数が）増えるが、2、3年すると減ってくる。

地域への話が一番大切であると思う。

よいバトンをつなげていきたいので、しっかりとした説明をお願いしたい。

会長：地域から学校がなくなるのは大変なことである。議会とも了解をとりながらやるべきで、事務局も配慮していただきたい。

教育長：中間まとめのあと地域への説明をスタートする。ゼロからスタートすると説明の仕様がな

ある程度の方向性を持って説明したい。議会へはまだ非公式だが説明の場を持ちたい。

委員：こういう動きがありますよというようなことを事前に地域へ知らせた方がよい。

教育長：できるだけ公開でやっていく。広く知らしめるようにしたい。

会長：スムーズな形でできればと思う。学校が地域に根付いているということに配慮しながらも、最後に残るのは、子供の教育の在り方である。どこどこを再編するかも大きな課題であるが、それは最大公約数で一番皆さんが納得されるように、距離的な配慮や学区をなくすのかなかないのかもご意見をいただきたい。

委員：中井ですが、6年生が0人である。再編は考えないといけないことだと思うので、皆さんの意見を聞いてやっていこうと思っている。

委員：人口減は前から分かっていたが、先手を打ってこれなかった。高梁で教育を受けてよかったなというようにしてやればよいのかなと思う。

7. その他

次回審議会は、市議会定例会のため事務局としては6月下旬で調整させていただきたい、後日ご案内させていただくので、よろしくをお願いしたい。

8. 閉会（川上副会長）

市長から内容の濃いものにしてほしいということだった。

再編の基本的な考え方を審議することが諮問事項の一つとなっている。何よりも子供達のための教育をどのようにしていくか、高梁を教育のまちとしてどのようにしていくかということを審議してほしいということですので、今後しっかりと審議していただいて高梁の教育が素晴らしいものになるよう取り組んでいただけたらと思うので、よろしくお願いします。